

ジオパークとは「地球と生命とのつながりを楽しく学べる地域」のこと。洞爺湖有珠山ジオパークは、火山活動を繰り返す地域での暮らしや知恵を学べるジオパークです。



約130段の階段を上ると、東屋があります。

今月は噴火湾沿岸の見どころ紹介で「カムイチャシ」（豊浦町）を紹介します。

豊浦町の沿岸の大部分には、美しい砂浜が広がっています。その砂浜を区切るように、巨大な岩々が海に突き出しています。

これらの岩は、数百万年前に、地中深くから岩盤を割りながら、地上を目指して上がってきたマグマ。岩盤の隙間に入り込み、板のようになって固まったものです。

やがて波や風雨が周りの岩を削り取っていききましたが、固い溶岩の部分だけが残し、今のような姿になりました。



カムイチャシの下部分は波に削られ舞台のよう。たくさんの生き物のすみかです。

砂浜が続く海辺に、大きく突き出した岬状の地形は、アイヌの人々にとって特別な場所でした。高い位置から海や周りの砂浜も見渡せ、船上からは陸の目印にもなったでしょう。特に大岸と礼文華の間にある茶津岬の上を、アイヌの人達はカムイ・チャシ・コツ（神の・とりで・あと）と呼び、神聖な場所としていました。

現在は国指定名勝「ピリカノカ」（アイヌ民族の物語の舞台となった場所やアイヌ語の名前がある景勝地）に指定され、大地と人間の歴史をつなぐ場所として、ジオパークの見どころにもなっています。



北海道博物館 特別展 9/25まで開催！ 「軽石」づくりに挑戦したよ！

7/16、北海道博物館（札幌市厚別区）で「ジオパークまつり」が開催され、道内5つのジオパークが1日限りの「実験屋台」をオープン。1000人を越える親子連れでにぎわいました。洞爺湖有珠山では、小麦粉と水で「軽石」のでき方を学ぶおいしい実験を行い、大好評でした！



石のでき方をよく聞いて、小麦粉と水で、「軽石」づくりに挑戦！